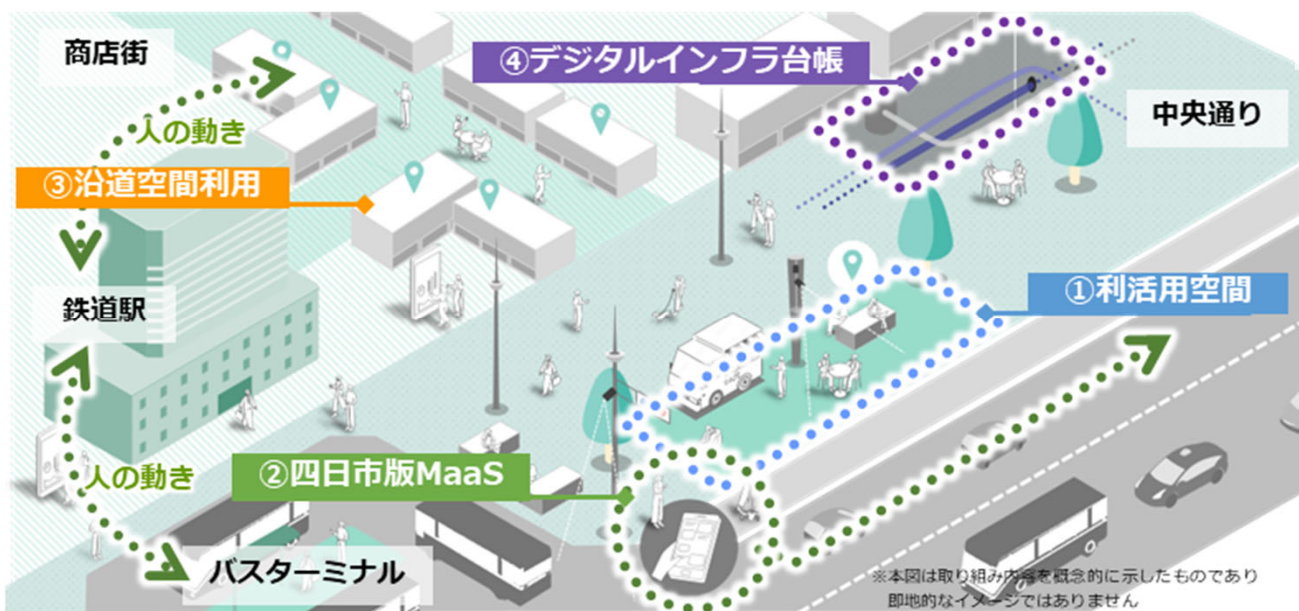


四日市スマートリージョン・コア
スマートシティ実装化支援事業の報告

四日市スマートリージョン・コア推進協議会

スマートシティ実装化支援事業 取組概要



スマートシティポータルサイトをオープンし、デジタルマップ上でスマートインフラ等にて取得した各種データを可視化



←近鉄四日市駅西側先行整備区間においては、既にAIカメラ等を含むスマートインフラ及び利活用空間が整備済み

中央通り沿いの混雑状況や環境データを可視化するダッシュボード→



中央通り再編事業の波及効果を促進し、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装

四日市市では、中央通り再編事業等により中心市街地の活性化を進めている。その波及効果を促進しつつ、持続的・自律的なまちづくりを推進するスマートシティサービスの実装を目指し下記①～④の取り組みを進めている。

今年度は3か年の実証の最終年度にあたる。

①利活用空間活性化ツールの構築

中央通り（人通り・気候・道路の情報等）の状況がリアルタイムで分かり、イベントの促進に寄与する必要なデータが得られるサービスを構築

②四日市版MaaSの構築

徒歩と公共交通機関での移動に付加価値を付け、まちなかの回遊性を促すサービスの構築

③沿道空間利用マネジメントシステムの構築

誰もがチャレンジできる場を提供するため、気軽に利用できる広場や歩道、空き店舗を可視化し、貸し借りができるサービスを構築

④デジタルインフラ台帳の構築

沿道の土地利用を促進するため、開発にかかる関係者間の調整を支援するサービスを構築

スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

①

利活用空間活性化ツールの構築

R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

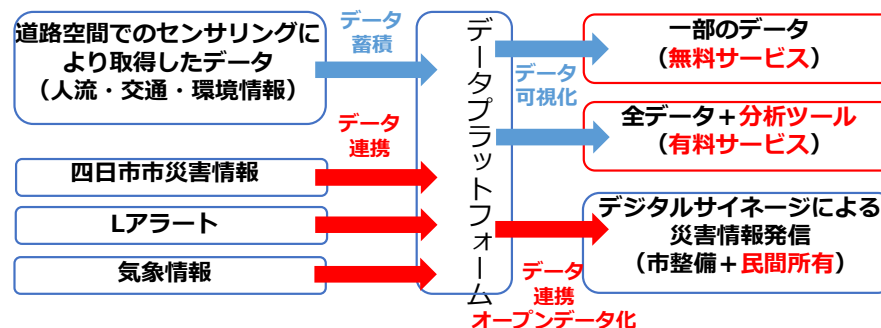
■実証実験の内容

1) 利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験

蓄積された人流および混雑度等のデータをパッケージ化し、不動産開発事業者や広告代理店業者、都市関連研究者等へデータ提供を行い、有用性やデータ可視化サービスの価格設定についてアンケートを実施した。

2) 災害情報コンテンツ効果検証を実施

発災直後の災害情報コンテンツを自動で提供し、中央通り周辺におけるサイネージ保有事業者へオープンデータ化された災害情報の優位性を周知するとともに、API連携方法を案内し、事業者保有サイネージとの親和性や連携手順についての課題をアンケートにより抽出を行った。



■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標(KPI)	概要	判定
データ可視化サービスの効果検証	データ検証実証実験 (アンケート調査)	・ 5段階評価でデータの市場価値があるとの回答が5割以上	キッチンカーの事業者など市内の事業者20以上にアンケート調査を実施	○
		・ 価格設定が適切との回答が6割以上		△
	災害情報連携の水平展開の可能性調査 (アンケート調査)	・ 公共・民間が管理するデジタルサイネージを対象として、導入コスト(超概算)及び技術面の課題等を提示したうえで、災害情報連携の可能性があると回答を被験者の5割以上から得る	中心市街地の範囲において、デジタルサイネージを所有または今後整備予定の公共機関及び民間企業にアンケート調査を行う (サイネージ10箇所程度を想定)	○

R7年度実証事業の結果と今後の展開

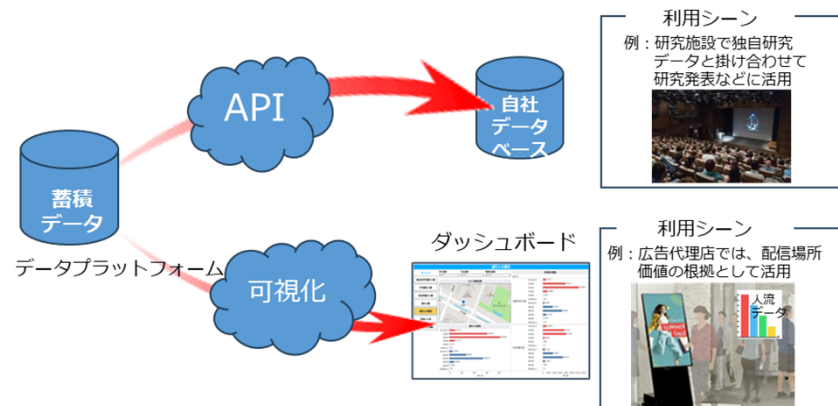
1) 利活用空間利用者等に対するデータ提供実証実験

■結果概要

データ提供サービスの市場性とビジネスモデル

アンケートの結果、全体の5割以上から、データの市場価値があるとの回答を得た。一方、「初期費用・月額利用料ともに適切」との回答は4.5割で、「案件・期間による」との回答も多く、未だ有効な活用事例が少ない、という意見もあった。

R7年度の実証を通じて、データサービス提供方法として、データプラットフォームAPI連携サービス型と可視化ダッシュボードサービス型を設定し、データ販売による部分的な収益化モデルの可能性が示唆された。



データサービス提供方法パターン

■課題及び今後の展開

データのマネタイズ等を通じた持続可能な維持管理方法の検討

令和8、9年度にデータ可視化サービスPR活動など知名度向上を推進し、令和10年度有償化本格サービス開始を目標に検討を進める。

今後は維持管理費の低減、セミナー・展示会出展、学会・産学連携セッションでの活用促進により認知度を高める方策など、持続可能な仕組みのための環境を育てていくことが重要である



データ利用者拡大のための取組

上に示したような認知度向上、データ利用拡大のための取組を行いつつ、民間による利用が拡大していくことで、公共の負担が減少していくような持続可能な仕組みを目指す。

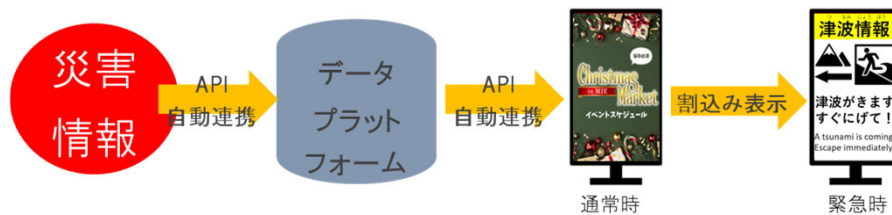
R7年度実証事業の結果と今後の展開

2) 災害情報コンテンツ効果検証を実施

■ 結果概要

災害情報連携の水平展開の可能性に関する評価結果

公共・民間が管理するデジタルサイネージを対象としたアンケートの結果、災害情報連携の可能性があるとの回答を全社から得られた。



災害情報発信 システムの概念図



デジタルサイネージの連携可能性調査の対象

■ 課題及び今後の展開

民間所有サイネージとの災害情報連携の水平展開

企業側にとっては、災害情報収集方法が「間接的」「受動的」になっており情報収集が体系化されていない点や、災害情報の通信媒体としてのサイネージの活用は理解する一方、行政側からの補助等を望む声もあった。

連携可能な民間所有サイネージの発掘・システムの拡大

実現に向けて、行政機関による民間サイネージ活用等の可能性を検討する。

スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

②

四日市版MaaSの検討

②四日市版MaaSの構築

R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

■実証実験の内容

1) MaaSデータダッシュボードに関するアンケート

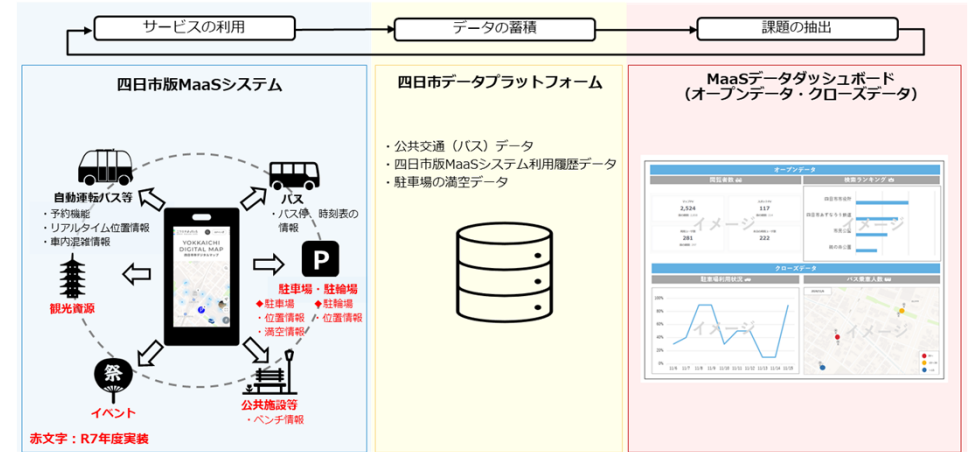
想定されるユーザーにプロトタイプのダッシュボードを試行してもらい、その有用性についてアンケートを実施する。

2) 四日市デジタルマップへのアクセス数を計測

既存情報の拡充と新規情報の構築による影響を把握するため、取組実施前後における四日市デジタルマップへのアクセス数の推移を計測する。

3) 四日市版MaaSと連携したイベント時のこにゅうどうレンタサイクルの利用者数を計測

BAURAミーティングの会場までレンタサイクルを利用したアクセス方法の告知等を行い、利用者増加を計測する。



■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	判定
①MaaSデータダッシュボードの有用性	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的（スコア4以上）の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・継続利用性の観点	MaaSデータダッシュボード利用者へのアンケート調査を実施	○
②スマートシティポータルサイトへのアクセス数	四日市デジタルマップのアクセス数を計測	新規情報構築後のアクセス数が5,000件/月以上 (2025年10月～2026年1月)	機能拡充と新規構築による四日市デジタルマップへのアクセス数と取組み前後の推移を計測 (R6年度では約4,000件/月)	△
③四日市版MaaSの満足度	アンケート調査	5段階評価で各カテゴリの設問に対して、5割以上が肯定的（スコア4以上）の回答 ・ユーザーインターフェースの観点 ・有用性の観点	四日市デジタルマップ利用者へのアンケート調査を実施	○
④施設利用者数の増加	こにゅうどうレンタサイクルの利用者数を計測	過年度のイベント時の利用者（28人）と比較して、利用者が23人※増加（目標利用者数51人） ※前年度イベント来場者数（約2,300人）の1%、JR・近鉄側で相互利用可能なため、全体で23人増を目標	中心市街地で開催されるイベント時のこにゅうどうレンタサイクルの利用者数の増加傾向を計測 (前年度のイベント時の貸出回数28台)	前回報告済 △ { 貸出回数 37台 }

R7年度実証事業の結果と今後の展開

■ 結果概要

MaaSデータダッシュボードの有用性

「ユーザインターフェース（操作画面の構成）」、「継続利用」のいずれの評価も5割以上が肯定的となった。改善点として「デバイスを選ばない見やすさ」や「他の分析軸とのかけあわせ」等が挙げられた。

スマートシティポータルサイトへのアクセス数

月平均1,976件で、目標5,000件に対し未達となった。自動運転実証実験と連携した期間においては、目標値に近い水準まで改善したものの、期間限定の要素が強く、施策終了後には利用が減少していく点に課題がある。

四日市版MaaSの満足度

「使いやすさ」「有用性」のいずれの評価も5割以上が肯定的となった。役立つ情報として公共交通情報、自動運転情報が挙げられていたことから、交通情報の充足が満足度向上につながる事が確認された。

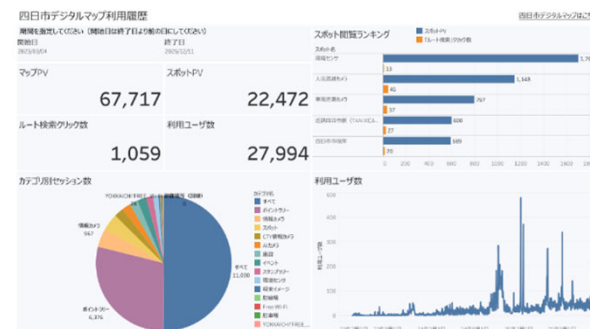
■ 課題及び今後の展開

「移動時に参照される情報基盤」を中心とした四日市版MaaSの進化

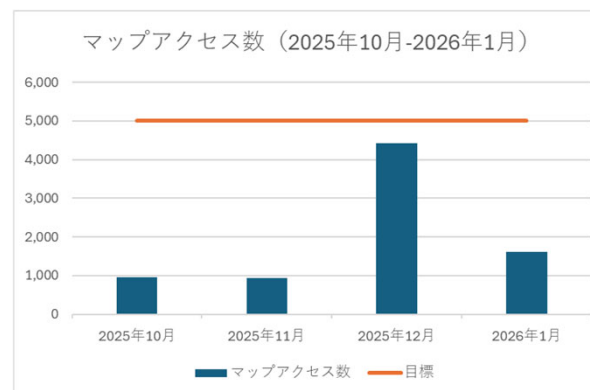
日常的な移動時に参照される情報基盤としての機能に加え、中心市街地における取組やまちなかの環境情報についても整理・掲載することで、情報基盤としての価値を高める。

運用体制の構築

段階的な展開を想定し、将来的には認知度や施策への影響度が向上し、広告掲載や施設・店舗等との連携といった展開も視野に入れた、持続可能な運用につながる環境を整備していく。



四日市デジタルマップの利用履歴ダッシュボード



スマートシティポータルサイトへのアクセス数結果

スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

③

バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築
沿道空間活用マネジメントシステムの構築

③沿道空間利用マネジメントシステムの構築

R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

■実証実験の内容

正式版（ドラフト）の構築

R6年度の実証結果を踏まえた与件整理、システム改修案の作成を行い、正式版（ドラフト）を構築した。具体的には、対象場所の空間情報に3D都市モデルの画面の閲覧機能、サービス対象のオープン化、対象エリア拡大、人流データ取得ポイント・予約状況・活用実績等を追加した。また、昨年度のシステム体験会で得られた意見を基に、トップページ構成の簡素化、ボタンデザインの改善、絞り込みフィルタの視認性向上、空間情報ポップアップの全画面表示化等を実施した。



社会実験・システム体験会等におけるヒアリング・アンケートの実施

2025年5月・6月に、中央通り周辺において社会実験「ニワミチJOYnt Park Days」を実施。また、2025年12月・2026年1月には、構築した正式版（ドラフト）を用いてシステム体験会を実施。商店街関係者・社会実験協力者、および大学関係者に対して、システムを試用してもらい、マッチングを促進するための人流データの有用性、使用者評価情報の有用性、効果的な情報表示方法、使い勝手、商店街活性化への寄与についてヒアリング・アンケートを実施した。



トップページと空間探しページの改修イメージ

「ニワミチJOYnt Park Days」の社会実験

■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	達成状況
システム環境とユーザビリティの適正性の検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	5段階評価で7割以上の事業者がポジティブな評価	アンケート・ヒアリング調査により、利用者ニーズの反映、2D地図をもとにした3D都市モデルの一部利用、エリアの拡大、オープン化によるシステムの使い勝手の向上などの効果を検証する	○
システムによる商店街活性化の効果検証	商店街関係者および社会実験協力者へのアンケート・ヒアリング調査	システムを利用することによる商店街活性化への期待する回答が7割以上等	アンケート・ヒアリング調査により、システムの利用を通じた新たなビジネス・民間投資への意欲や、オープンスペース及び沿道の未利用の土地・建物への興味、商店街活性化への意欲や期待値の向上などの効果を検証する	○

R7年度実証事業の結果と今後の展開

■ 結果概要

システムのユーザビリティと情報有用性

前年度の課題を踏まえた改修により、システムの操作全体のスムーズさについては88%のポジティブな評価を獲得し、昨年度の51%から大幅に改善した。

一方で、情報の有用性に対するポジティブな回答は全体の48%となり昨年度の62%を下回った。これは、昨年度よりも粒度の細かい情報を掲載でき、掲載情報量は増加した一方で、情報が増えたことによりユーザーは細部まで完成度の高い情報を期待するようになった可能性がある。

今後は、情報量を適切に整理しつつ「知りたい情報がある」状態から「使える情報として整っている」状態へ近づけることができると思われる。

商店街活性化への寄与

本システムが商店街の活性化への期待が高まったと回答した割合は71%となり、KPIを達成した。

■ 課題及び今後の展開

正式版のリリースと運用

実証実験の結果を踏まえ正式版をリリース、R8年度から本格的な運用を開始する。過年度の経緯を踏まえ、段階的な改善を継続しながらサービスを運用する。

運用体制の段階的移行とルールの精査

現段階では四日市市がシステム管理者となっているが、将来的には地域のまちづくり組織への業務委託を通じて、システム運用を段階的に地域主体へ移行していく。そのために、システム管理にあたってのルールの精査等を行う。

システム画面



空間情報ポップアップページとカルテのイメージ

スマートシティ実装化支援事業 各取組の概要

④

中央通りにおける3D都市モデルを活用した
プランニング／マネジメント・ツールの構築
デジタルインフラ台帳の構築

④デジタルインフラ台帳の構築

R7年度実証事業の内容とKPI達成状況

■実証実験の内容

デジタルインフラ台帳の運用体制・ルールの実証

モデル変更・更新作業に向けたガイドライン・マニュアルを作成し、各関係者の使い勝手（主にデータの管理・やり取りの使い勝手・運用の手間（コスト））についてアンケートを実施する。

ARソフトを活用した現場確認実験の実施

発注者・設計者・施工者・地下埋設事業者を対象にARソフトを活用した実証、埋設物破損事故防止効果・災害復旧時の機能回復迅速化、災害時の復旧への活用と工数削減効果等についても検証を行った。



デジタルインフラ台帳体験会の状況

■KPIの達成状況

検証項目	検証方法	目標	概要	検証結果	判定
KPI① デジタルインフラ台帳の運用に必要な体制・ルール	・デジタルインフラ台帳の運用に携わる市及び埋設物事業者等へのアンケート	①運用に関する体制・ルールについて「今回の体制・ルールであれば導入可能」という回答が9割以上 ②「R7時点で実装可能」という回答が2社以上	①最適な運用の体制・ルール等を設定し、その内容について関係者に説明し、「問題はない」という回答の割合を調べる。 ②「この前提で実装及び運用可能」という埋設物事業者の割合を調べる。	①運用に関する体制・ルールについて「今回の体制・ルールであれば導入可能」という回答が94%（16人中15人）であった。 ②「R7時点で実装可能」という回答が、5社中4社であった。	① ○ ② ○
KPI② デジタルインフラ台帳の利用を促進するためのユースケースの有効性	・ARソフトを活用した現場確認実験 ・埋設物破損事故防止効果、災害復旧時の状況確認・機能回復の迅速化等についてのアンケート ・災害復旧時に台帳を活用した場合の工数シミュレーション	①ユースケースの有効性を認める回答が過半数を占める ②破損事故防止、災害復旧に効果があるという回答が7割以上 ③災害復旧時の検討にデジタルインフラ台帳を活用した場合の工数について2割以上の削減効果	①アンケートに自由記述欄を作成し、更なるユースケースのアイデアの収集を行う。 ②また、想定される利用方法について収集を行う。 ③災害復旧時の検討については、デジタルインフラ台帳を活用した場合の工数削減効果を推定検証した結果についての妥当性を調べる。	①ユースケースの有効性を認める回答が「ある」「ややある」を含めると100%（15人中15人）であった。 ②破損事故防止、災害復旧に効果があるという回答が「有効」「やや有効」を含めると100%（15人中15人）であった。 ③災害復旧時の検討にデジタルインフラ台帳を活用した場合の工数削減効果についての回答が「妥当」「やや妥当」を含めると93%（15人中14人）であった。	① ○ ② ○ ③ ○

R7年度実証事業の結果と今後の展開

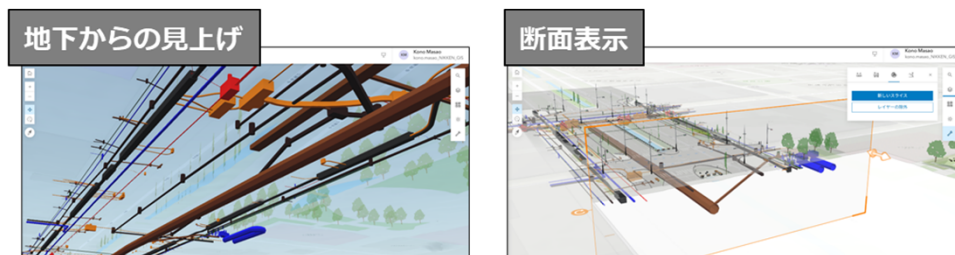
■結果概要

デジタルインフラ台帳の運用体制・ルール

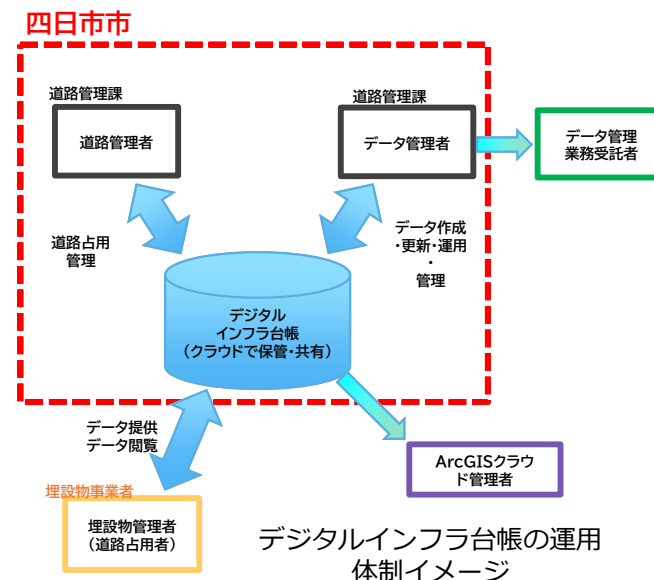
大多数の関係者が現時点での実装・運用を可能と評価し、埋設物事業者の多くがR7年度時点での実装が可能と回答した。デジタルインフラ台帳の有効性についても約9割が肯定的に評価した。

ARソフトを活用したユースケースの有用性

ARソフトを活用した現場確認について、埋設物破損事故防止効果と災害復旧時への活用に対して全員が有効性を認めた。災害復旧時の工数削減効果についても、2D図面使用時と比較して工数を約60%削減できることが確認された。



デジタルインフラ台帳のイメージ



デジタルインフラ台帳の運用体制イメージ

■課題及び今後の展開

データ利用対象者の拡大

現時点ではデータ利用対象者が埋設物事業者に限定されているが、今後、データ公開範囲を拡大するためには、データ利用者の管理方法、情報の公開に伴うセキュリティ、情報に対する責任範囲などについて、検討が必要である。

運用体制の最適化

デジタルインフラ台帳におけるデータの作成・更新・運用・管理は、道路管理者が担うことになっているが、地下埋設物に関する情報を関係者間で共有するシステムなど先行する動向等も踏まえ、検討が必要である。

地下埋設物3D都市モデル先進事例としての知見の全国共有

本取組で得られた知見を全国の自治体と共有し、地下埋設物の3D都市モデルの普及を促進する。

目指す将来像	サービス設定	No.	取り組み内容	KPI	R3 (策定時値)						R9	進捗率 (最新値/R8 目標値)	
					R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値			
交通利便性が高く歩きたくなるまち (Walkable & Mobility)	サービス/ まちなか ウォカブル・ネット ワーク	1	ウォカブル・ネット ワーク、交通結節拠点と してのスマート・バスタ の整備	中心市街地の歩行者流量 ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	取組継続	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人		94.95%
快適で安全に生活 できるまち (Green & Energy)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	2	待ち時間や移動時間を楽 しめるモビリティの導入	高速バス利用者数 ※近鉄四日市駅前における高速バスの平日1日あたりの乗 降者数の合計	平日	244人/日 (平成30年度)	126.2人/日	145.4人/日	143.4人/日	未	300人/日	取組継続	47.80%
					休日	7,979人/日 (平成30年度)	5,597人/日	6,085人/日	6,220人/日	未	8,000人/日	77.75%	
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	3	ウォカブル+ウェルネ ス環境の展開	中心市街地の歩行者流量 ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定 ※国土交通省スマートシティ実装化支援事業のKPIより引 用	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	実装完了	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人		94.95%
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	4	パブリックスペースの可 能性最大化	新たに整備される中央通りのオープンス ペースにおけるイベント開催件数	0件/年	1件/年	1件/年	1件/年	1件/年	6件/年以上	取組継続	16.67%	
					はじまりのいち (整備前の空間)	中央通りストリート サーキット (整備前の空間)	ニワミチスポット てらす (整備済み区間)	ニワミチ JOYntParkDays (整備済み区間)					
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽し めるパブリッ クスペース	5	インタラクティブなスト リートファニチャー	中心市街地の歩行者流量 ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	実装完了	86.97%
					休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人		94.95%
快適で安全に生活 できるまち (Green & Energy)		6	災害に強い中央通り	KPIの設定は行わなかったものの、効果的な手法について検討を進めた。 その手法のひとつとして、データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達方法について は、国土交通省のスマートシティ実装化支援事業の令和6年度に行った災害時を想定した情報伝達実験において、被験者の行動観察等を個別にKPIに設定し、 システムの有用性等の検証を行った。 令和7年度末でシステムが実装化されることから、令和8年度以降に効果検証を進める。							実装完了		
健やかでかつ賑わ いのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 交流・賑わ いのバリュー アップ	7	人流誘導による商店街活 性化	商店街の空き店舗数 ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	12.1% (平成30年度)	10.70%	10.20%	9.90%	未	11.30%	実装完了	114.1% (達成済)	
					8	スマート図書館	中心市街地の歩行者流量 ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設 定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未
9	メタバース (デジタルツイン)	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人		未	62,400人	実証完了	94.95%		
データ利活用によ るサービス提供、 イノベーション創 出 (Accessible & Innovation)	ソフト・ インフラ	10	データプラットフォーム	データプラットフォームの閲覧数 ※デジタルマップの閲覧件数。R6年度から本格運用開始 * R7年度数値は令和8年3月18日現在の数値 ** R7年度数値/R8年度目標値	0件/年	—	—	40,927件	16,977件*	50,000件	取組継続	33.95%**	
					11	3D都市モデル	0件	1件	2件	3件	4件	5件以上	実装完了
	ハード・ インフラ	12	スマート・インフラ	—	—	災害リスク (浸水)の可視化	中央通り再編計画 の重畳	埋蔵文化財 の可視化	デジタルインフ ラ台帳				

※令和10年度以降については、ソフト事業について協議会の場でご意見をいただきながら取組を進めていく。

令和7年度四日市スマートリージョン・コア推進協議会 第3回幹事会
出席者名簿

別添1

3月30日(月) 10:30~12:00
四日市商工会議所 3階 大会議室(オンライン併用)

区分	所属	氏名	出欠	随員	現地/オンライン	
幹事会 役員	有識者	東京大学 大学院 工学系研究科 教授	村山 顕人	○		現地
		名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授	松本 幸正	○		オンライン
		早稲田大学 理工学術院 教授	有賀 隆	○		オンライン
	交通 関係者	近畿日本鉄道(株) 鉄道本部 名古屋統括部 施設部長	三重 和宣	○	名古屋統括部施設部工務課 主査 牧野 修幸(オンライン)	オンライン
		三重交通(株) 取締役	高田 和昭	○	企画部 部長 小瀬古 恵則(現地)	現地
		三岐鉄道(株) 自動車部 運行管理課 課長	伊藤 眞郷	○		現地
		(三重県タクシー協会北勢支部) (株)三交タクシー 代表取締役社長	内山 宣哉	○		現地
	商工関係者 大規模権利者 事業展開企業	学校法人みえ大橋学園 理事長	大橋 正行	欠席		—
		(株)近鉄百貨店 四日市店 営業推進部 マネージャー	木室 康弘	○		オンライン
		四日市商工会議所 専務理事	山下 二三夫	○		現地
		近鉄グループホールディングス(株) 総合政策本部 事業推進部 部長	赤井 智明		代理出席 総合政策本部 企画推進部 課長 森 有一郎	現地
		近鉄不動産(株) 名古屋事業本部 賃貸事業部部長	吉田 健	○		オンライン
		(株)シー・ティー・ワイ 取締役 営業部 部長	伊藤 秀明	○	営業部 次長 山本 龍太郎(現地)	現地
		(株)三十三銀行 営業本部営業企画部 営業企画課 課長	臼井 智博	○	営業企画部 企画役 森田 宏(オンライン) 上席主任 三浦 大樹(オンライン)	オンライン
		中部電力(株) 事業創造本部 部長	黒木 信彦	欠席		—
	行政	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 副所長	伊藤 秀則	欠席		—
		三重県 県土整備部 都市政策課 副課長	笠 匡司	○		オンライン
		四日市市 副市長	荒木 秀訓	○		現地
	賛助会員	(株)日建設計 都市社会基盤部門 CM測量部長	中村 出	○	都市社会基盤部門 CM測量部 アシエイト 河野 正雄(オンライン) アシエイト 豊島 香須弥(オンライン)	現地
		早稲田大学 理工学術院 講師	小松 萌	○		オンライン
		(株)マクニカ スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 部長	福田 泰之	○	スマートシティ&モビリティ事業部 スマートモビリティ事業推進部 担当 奈良岡 龍一(現地) CPSソリューション開発部 担当 高木 克真(オンライン) 担当 矢部 維(オンライン)	現地
オブザー バー	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官	高濱 康亘	○	都市局 街路交通施設課 課長補佐 渡邊 和(オンライン) 二輪駐車場係長 村川 達郎(オンライン)	オンライン	
	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	後藤 直紀	○		オンライン	
	国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長	江川 晃平	○	交通政策部 交通企画課 専門官 田中 秀和(オンライン) 調査員 竹内 貴大(オンライン)	現地	
	国土交通省 中部運輸局 三重運輸支局 企画調整担当 首席運輸企画 専門官	森 慶之	○		オンライン	

事務局	行政	四日市市 政策推進部	部長 川口 純史
		四日市市 政策推進部 政策推進課	参事兼課長 矢澤 眞太郎
		四日市市 危機管理統括部 危機管理課	課長 芝田 茂
		四日市市 シティプロモーション部 観光交流課	課長 大橋 剛
		四日市市 商工農水部 商業労政課	課長 桑 昌洋
		四日市市 商工農水部 工業振興課	課長 釜瀬 俊之
		四日市市 環境部 環境政策課	課長 赤堀 剛亮
		四日市市 総務部 デジタル戦略課	課長 林 雄士
		四日市市 総務部 デジタル戦略課 行政DX推進室	室長 吉田 純平
		四日市市 都市整備部 都市計画課	課長 蟹江 伸次郎
		四日市市 都市整備部 都市計画課	公共交通推進室長 藤田 貴
		四日市市 都市整備部 都市計画課	計画GL 橋本 幹人
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	課長 戸本 直弥
		四日市市 都市整備部 市街地整備課	副参事兼課長補佐 伊藤 直人

